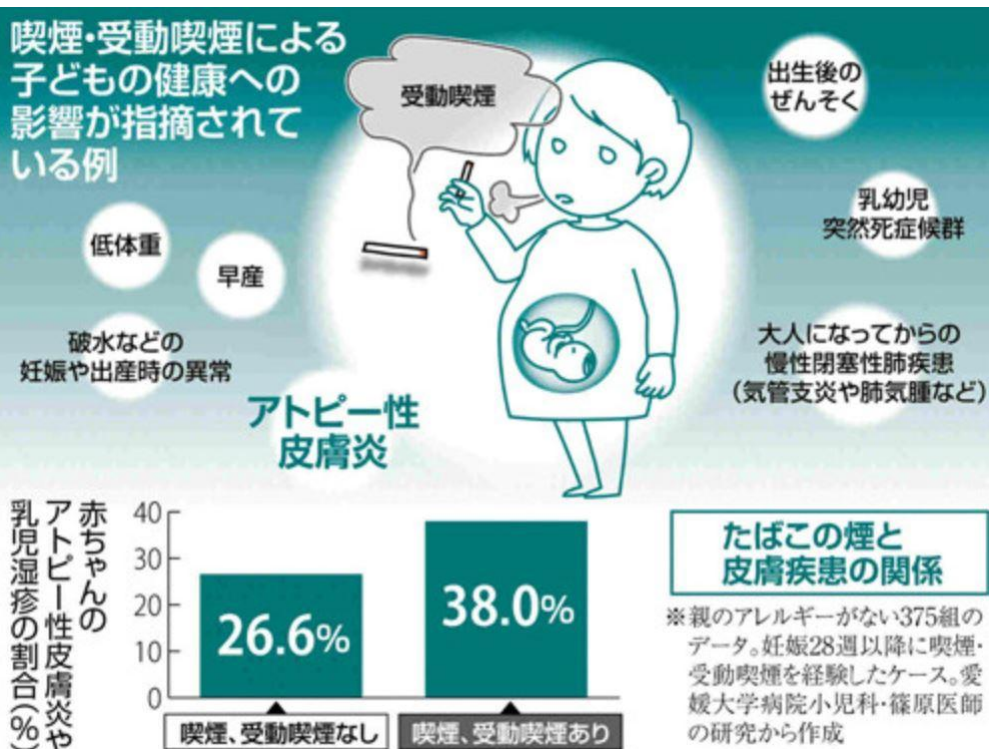


週刊 タバコの正体



読売新聞 yomiDR.サイトから

乳児の湿疹とアトピー性皮膚炎

乳児の湿疹が2か月以上続いた場合などにアトピー性皮膚炎と診断される



アトピー性皮膚炎
気管支ぜんそく
乳幼児突然死症候群
低体重、早産…

これらは、母親が妊娠中に喫煙したり受動喫煙にさらされたりした場合に生まれてくる赤ちゃんに発症する確率が高くなると言われている病気の例です。

なかでも左図に示すとおり母親のおなかの中にいる時期のタバコの煙は子どもの皮膚疾患に影響を与える事がわかってきました。

さらに、親の喫煙による受動喫煙の影響を受けると乳幼児が気管支ぜんそくになる確率は1.5倍、乳幼児突然死症候群は4.7倍になるそうです。

親が喫煙すると、何も知らずに生まれる赤ちゃんに健康上のハンディキャップを負わせる事になるのです。

未来の親になる皆さんは、この事実をしっかり認識しておいて下さい。生まれてくる子どもの人生を左右するかも知れない事を忘れないで下さい。

